

きいて・めもして・こたえよう

すいさんぎょう ひと
水産 業の人への インタビュー

なまえ
名前

きこめあて 漁師の「仕事の流れ」と、今の「課題（こまっていること）」
を、分けてメモしましょう。事実と、大川さんの考えも区別します。

ことば しごと なが かだい すうじ
おとさない言葉：仕事の流れ・課題・数字

ほうそう
放送が終わったら、
ひら
開いて問題に答えましょう。

(1) 大川さんは、何年以上、魚をとる仕事をしていますか。

(2) 大川さんは、朝の何時に船を出しますか。

(3) 大川さんが、今いちばんこまっていることは、何ですか。○をつけましょう。
いふね
船が古くなったこと

イ とれる魚の量がへっていること

ウ 市場が遠いこと

(4) 次のうち、大川さんの「考え（おも）」が書かれているのは、どれですか。○をつけましょう。
あさ
朝の三時に、船を出す

イ 港にもどるのは、昼前だ

ウ この仕事に、ほこりをもっている

(5) 大川さんに、もっと聞いてみたいことを「しつもの文」で一つ書きましょう。

やまおり

すすめ方

- ① 中央の点線で山折りにして、「めも」の面だけを表にする（問題を先に見せない）。
- ② この放送文を先生が読む（または用意した音声流す）。読む回数：1回。聞きながらメモを取らせる。
- ③ 放送が終わったらプリントを開き、メモを見ながら問題に答えさせる。

放送文

今日は、この港で漁師をしている、大川さんに、インタビューをしました。大川さんは、二十年以上、この海で、魚をとる仕事をしています。漁師の一日の仕事の流れと、今、こまっていることを、聞きました。

大川さんの一日は、とても早く始まります。「朝の三時には、船を出します。魚のおれを見つけて、あみを入れ、魚をとります。港にもどるのは、昼前です。その後、とった魚を、市場に運び、せりにかけます。」

「大変なことは、天気、大きくえいきょうされることです」と、大川さんは言います。「海があれば、船は出せません。また、風の強い日は、とても、きけんです。しぜんを相手にする仕事なので、思うようにいかないことも、多いのです。」

今、大川さんが、いちばんこまっているのは、とれる魚の量が、へっていることだそうです。「昔にくらべて、魚がとれなくなりました。海の温度が変わったことや、とりすぎが、原因だと言われています。海のしげんを守るため、とる量を、みんなで決めるなどの、取り組みも始まっています。」

大川さんは、「それでも、この仕事に、ほこりをもっている」と話します。「自分がとった新せんな魚を、みんなが、おいしいと言って食べてくれる。それが、何よりのよこびです。」海のめぐみを、大切にいただこうと思いました。

メモのれい

水産業・漁師の大川さんインタビュー（二十年以上）

仕事の流れ：朝三時に船→魚のおれにあみ→昼前に港→市場でせり

大変：天気にえいきょう（海があればとられない・風はきけん）

課題：とれる魚の量がへっている（海の温度変化・とりすぎ）→とる量を決める取り組み

こたえと かいせつ

（1）二十年以上

「二十年以上、この海で、魚をとる仕事をしています」の部分です。

（2）（朝の）三時

「朝の三時には、船を出します」と言っていました。

（3）イ（とれる魚の量がへっていること）

「とれる魚の量が、へっていること」がいちばんの悩みでした。海の温度変化や、とりすぎが原因と言われています。

（4）ウ（この仕事に、ほこりをもっている）

アとイは仕事の流れ（事実）です。ウは大川さんの「気持ち・考え」です。

（5）（例）どんな魚が、いちばんよくとれますか。／魚をふやすために、何をしていますか。

漁師の仕事に関する「たずねる文（～ですか。）」になっていれば正解です。